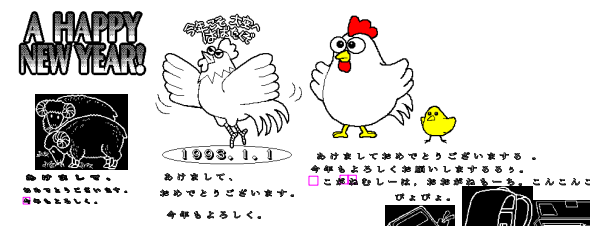


へき地小規模校におけるパソコン利用についての研究 パソコンクラブの活動を通して

東祖谷山村 栃之瀬小学校 中川 斉史



1 はじめに

”情報化社会”といわれはじめて数年が経過した。小中学校においても例にもれることなく、その波は確実に押し寄せてきている。中学校においてはパソコンなどの活用も進んで来ているようであるが、小学校においては、来年度より本格的に進められるということである。

本校では、平成3年度にパソコンを1台購入し、校内事務処理用として使用したり、パソコン通信などで授業にも使用してきた。（平成3年度へき地校における取り組み本校論文参照）

本年度は、さらにパソコンクラブを創立し、児童達のコンピューターリテラシーの向上をめざした。

2 本校の実態（情報化環境）

本校は標高500mほどのへき地指定2級の小規模校である。職員数は11名であるが、そのうちパソコンを所有している職員は、7名である。なんと所有率64%である。しかも、意欲的な態度で自主的研修をし、授業の中でどのように使えるかといった意見交流などもしている。

また、プリンターインク、フロッピーディスク等の消耗品も不足なく充実し、快適な情報化環境ではあるが、ソフトウェアの購入となると、費用のねん出に、頭を痛めているのが現状である。

本校のパソコン環境

- ・ PC-9801UF（備品1）
- ・ PC-9801NS/E（個人所有5）
- ・ PC9801NS/T（個人所有1）
- ・ PC386NOTEARZ（個人所有1）
- ・ PC-9801NA（個人所有1）
- ・ PC9801RA21（個人所有1）

3 パソコンクラブ活動計画

本年度4月にクラブメンバーを募集したところ4、5年生男子5名が希望した。そして、本クラブ活動の目標を決めた。目標は次の通りである。

- ①パソコン各部の名称を知り、正しい取扱いができる。
- ②キーボードリテラシーの向上をはかる。
- ③ローマ字入力ができる。
- ④マウス操作が楽にできる。

これらの目標に到達すべく、いろいろなソフトを使ったり、課題を変化させていった。なお、具体的な活動内容はスペースの関係で省略する。

4 活動の記録

以下に掲載するのはクラブメンバーが作成した年賀状である。

5 考察

各職員の協力で、個人所有のパソコンを貸してもらい、一人に1台の環境で活動が続けてきたが、いくつか問題点や改善点が生じたので考察を行う。

ア) 小学生とローマ字

目標③にあげたローマ字入力であるが、4、5年生という条件下では、いくらローマ字表を配ったとしても、すぐに標記できずその時間の活動に支障をきたした。これは、通常使用してないことと、キーボード上の表示が大文字であること、さらに、拗音（しゃしゅしょ等）での戸惑いなどが原因している。大人でもはじめてローマ字入力する人は、戸惑いながら入力しているはずである。まして、ローマ字に不慣れな小学生にとって大変なことであろう。

指導する側としてはローマ字打ちをさせたかったが、児童はカナを探して入力する方が短時間で入力できるので、カナ打ちを好んだ。

イ) 漢字入力と変換方式

日本語とはたいへん複雑な言語で、特に平仮名を入力してから漢字に変換する際の作業はたいへん複雑な作業を伴う。小学生が入力する場合、読みそのものを入力し、変換しようとする。（特に人名）しかも、助詞から始めたりすると、とんでもない変換になってしまう。「人に物を」→「人 **にものを**」→「人煮物を」

このように、日本語入力で時間をとりすぎると他の作業にいくまでに作業時間を使ってしまい、児童の興味が薄れてくる。したがって、できるだけ短い文章を入力させるようにした。

ウ) 作画ツールと絵

あまりたくさん日本語を入力する作業ができないとなると、今度は図形を書くソフトを使用するようになる。しかし、たとえコンピューターといえども、何にもないところから、イラストやマンガを書けるはずがない。結局は使う人の作画能力にかかってしまう。しかしこれでは、うまく書けない児童はおもしろくない。そこで、児童に絵などを使わせたいときは、イラスト集のフロッピーを用いる。これだと、そのイラストを組み合わせてたり、加工したりして自分だけのオリジナルな絵が仕上がる。それらの結果が、上記の年賀状である。

6 おわりに

パソコンを使って何かを生み出すのも大切だが、上記ウ)のように、各データを使い自分なりの作品（絵だけでなく、情報集め、資料作成）を創作してく活動が、本当の意味での情報活用能力を高めていくことになるだろう。（文責 中川 斉史）